

新春ごあいさつ



運営委員会 会長
田沼征彦



新年明けましておめでとうございます。JAいわてグループの会員JA組合員、役員員ならびにご家族の皆さま方には、お揃いで新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年で先の震災から丸5年を迎えるわけですが、いまだに復興への道半ばであり、全農岩手県本部といたしましても新たな形での産地復興に引き続き取り組んでいく所存です。

さて、昨年を振り返りますと、農業をめぐる事業環境が一段の厳しさを増した1年でありました。8月には60年振りとなる改正農協法が成立し、10月にはT P P閣僚合意において大筋合意がなされるなど、JAグループが取り組んできた自己改革による自助努力や、次代の担い手を含む多くの農業者の生産意欲にまさに水を差すような現政権による農業政策は、国の礎である日本の農業の今後進むべき道を二層不透明にするばかりであり、県内農業者の皆様の不安は如何ばかりかと存じます。加えて、高齢化社会が到来している日本において、農業者の高齢化・就業人口の減少などによる生産基盤の縮小問題は、本県に

おいても年を追うごとに加速化しており喫緊の課題となっております。

こうしたなかで、昨年開催された第44回JA岩手県大会のテーマであります「農家組合員の所得増大と地域の活性化に全力を尽くす」を具現化するためには、JAいわてグループが掲げた基本目標とその達成に向けた重要施策の実践が不可欠でございますが、殊にも新たな中期3か年計画の初年度(平成28年度)を迎える全農岩手県本部においては、経済事業連として「農家組合員の所得増大」ならびに「農業生産の拡大」に資する最重要施策を着実に実践していくことが、持続可能な岩手農業のあるべき姿「純情産地いわて」の確立につながる唯一無二の道であるということ、あらためて全役員が肝に銘じ、一丸となって会員JA・組合員の負託に応えられる事業活動に取り組んでまいります。



県本部長
山俊彰

新年明けましておめでとうございます。さて、昨年は60年振りとなる「農協法」改正法案の成立や、T P P閣僚合意における大筋合意など、日本の農業とJAグループの今後を大きく左右する事象が立て続けに起こった一年でした。

本年を境に、日本の農業は「大転換期を迎えよう」としており、まさに「農業改革」の本丸とも言えるJAグループの「経済事業」のあり方が真に問われる時代が到来したという現実、身の引き締まる思いとともに、JA組合員の皆様の期待に応え、かつ将来にわたつても期待をよせていただける全農岩手県本部であり続けなければならぬという強い使命感を、年の初めにあたつてあらためて感じ入っている次第です。

本年は、新たな中期3か年計画の初年度であり、「農家組合員の所得増大」の実現に向けて次の3点を重点的に取り組みたいと考えております。

第1に、「販売事業では、「マーケットインによる販売力強化」を踏まえた産地本会実需の結びつきの一層の強化を図ります。特に米穀部門では、主力品種である「ひとめぼれ」の安定的販売を最重点目標に掲げ、待望の県オリジナル新品種「銀河のしずく」の話題性も活用することで、実需からの本県産米への全体評価を底上げし、販売価格に結びつけます。園芸部門では加工・業務用事業者との連携による実需の掘り起しや、新規栽培品目の提案を通じた買取販売の拡大を推進し、産地形成を販売・生産基盤対策両面でサポートしてまいります。また、畜産部門では引き続き「いわ

て牛」ブランドのPR強化と全農グループ機能発揮による海外販路確保も含めた有利販売に取り組みます。

第2に、「生産から販売までのトータルコスト低減」による「農家手取り最大化」に向けては、担い手経営体等のニーズに対応する肥料・農薬コストの低減や県下モデルJAを通じたプロジェクト実践等、会員JAと本会購買部門が連携した取り組みを強化してまいります。また、流通経費(輸送・保管)についても引き続き低減を図ります。加えて、昨年8月に稼働開始いたしました農機「基幹整備センター」はその機能発揮により農機具費トータルコストの低減を図り、将来構想である県内全域での事業展開につなげます。

第3に、「生産基盤の維持・拡充」ですが、畜産部門では、和牛改良センターへの新たな機能付加により県内肥育農家への素牛供給体制の強化を図り、全国的にひびくしている和牛子牛の安定供給に取り組みます。また、昨年設置した「生産指導課」獣医師の巡回指導による生産性の向上を図る他、各種基盤対策助成を拡充し継続実施いたします。また、耕種全般の反収向上省力化につながる新たな栽培技術の確立によって生産コストの低減に取り組まれます。

資材部

特集 生産コスト低減の取り組みと 事業競争力強化について

純情産地発 クララー KLARA vol.798 2016.1



contents

新春あいさつ	02	食から健康 ドクターズレストラン	06
特集 生産コスト低減の取り組みと 事業競争力強化について	03	イーハトーブの担い手便り	07
		純情むすめハーフタイム	09
		NEWS ワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳にのしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

JA-POP甲子園 2015(全国大会)



ジェイエース・ラウンドアップ部門特別賞 特別企画 大型POPコンテスト部門銅賞
JA新しいわて 舌崎資材センター

平成27年度 JA-POPディスプレイコンテスト(岩手県大会)



大型ディスプレイ部門
最優秀賞 JAいわて花巻 グリーンセンター東和

簡易ディスプレイ部門
最優秀賞 JAいわて花巻 笹間支店

1. 肥料・農薬情勢

肥料農薬は、世界的な食糧増産により需要が高まっており、安定的な原料の確保が重要となっております。

また、国内を見ると、米価の低迷や新たな農業政策により、私たちを取り巻く事業環境は厳しさを増しております。

このような状況のなか、全農としては肥料原料の安定的な確保と農薬大型規格などコスト低減の取り組みを引き続き強化してまいります。

II. 平成27年度 重点推進事項の取り組み状況

生産コスト低減の取り組みと事業競争力の強化を基本方針とし、B/B肥料や農薬系統独自品目など低コスト資材の普及拡大をはかることにより、生産者組合員に信頼される生産資材価格の実現に取り組んでいます。

また、集落営農組織や法人等大規模経営体への事業推進をJAと一体となつてすすめています。

1. 生産コスト低減への取り組み強化

- 〔肥料〕
- ① 施肥コストの低減対策
 - ② 土壌診断にもとづく適正施肥
 - ③ B/B現地銘柄の普及
 - ④ 省力化・低コストに向けた総合的コスト抑制肥料の開発と普及

JA-POP甲子園2015(全国大会)

ジェイエース・ラウンドアップ部門

特別賞 JA新しいわて 舌崎資材センター

特別企画 大型POPコンテスト部門

銅賞 JAいわて中央 グリーンセンター都南

銅賞 JA新しいわて 舌崎資材センター

特別企画 定番棚コンテスト部門

銀賞 JA岩手ふるさと 胆沢資材センター

東北地区JAディスプレイコンテスト2015(東北大会) 一等地部門

金賞 JAいわて中央 グリーンセンター紫波

銅賞 JA新しいわて 舌崎資材センター

敢闘賞 JAいわて平泉 大東営農経済センター

敢闘賞 JAいわて平泉 東山営農経済センター

敢闘賞 JAいわて中央 グリーンセンター都南

売り場部門

銅賞 JA新しいわて 久慈店

レジ前部門

金賞 JAいわて平泉 東山営農経済センター

敢闘賞 JA岩手ふるさと 胆沢資材センター

倉庫部門

金賞 JAいわて平泉 永井支店

銀賞 JA新しいわて 川口店

銅賞 JA新しいわて 西山店

各部門共通

事業所長賞 JA江刺 ふれあい資材センター

H27 JA-POPディスプレイコンテスト(岩手県)

■大型ディスプレイ部門 応募店舗:24店舗

最優秀賞 JAいわて花巻 グリーンセンター東和

優秀賞 JAいわて花巻 グリーンセンター石鳥谷

JAいわて平泉 千厩営農経済センター

JAいわて平泉 一関営農経済センター

■簡易ディスプレイ部門 応募店舗:22店舗

最優秀賞 JAいわて花巻 笹間支店

JA新しいわて ニツ屋店

JAいわて平泉 川崎営農経済センター

優秀賞 JAいわて花巻 太田支店

JA新しいわて 岩泉店

JA新しいわて 葛巻店

(2)BB肥料担い手直送の実施によるコスト削減

	取扱数量	コスト削減額
平成26年度実績	5,764ト	66,300千円
平成27年度目標	6,000ト	69,000千円

〔農薬〕

(1)防除コスト低減対策

①大型規格品目の普及・拡大

	取扱金額	コスト削減額
平成26年度実績	423,000千円	58,000千円
平成27年度目標	425,000千円	60,000千円

②系統独自品目、重点品目のJA防除層への採用拡大

- #### 2. 事業競争力の強化
- (1) 販売部門との連携による系統独自品目の普及拡大
 - ① 水稲農薬を中心とした系統独自品目の普及拡大による減農薬栽培への寄与
 - ② B/B肥料の維持・拡大
 - ③ 地域ニーズに対応した銘柄の開発普及
 - ④ 良質米生産に向けた土づくり肥料の普及拡大
 - ⑤ 期別契約にもとづく予約の向上
- 以上の取り組みにより、生産コスト低減、事業競争力の強化をはかります。

(3)生産組織や大規模農家に対するJAと一体的推進体制の構築

	農家訪問回数
平成26年度実績	1,383回
平成27年度目標	1,500回

(4)POPディスプレイコンテストの開催によるJA店舗の活性化

平成27年度参加店舗数	46店舗
-------------	------



食から健康 Doctor's restaurant ～ドクターズレストラン～

協力/ドクターズレストラン「Green*Green」盛岡市松園2-2-10 TEL.019-665-2345

●スープカレー雑煮

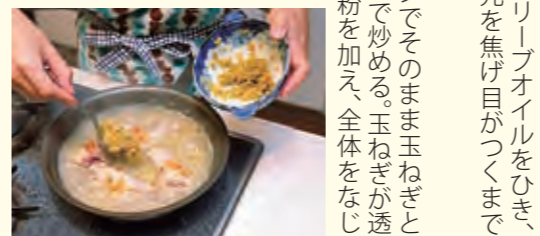
エネルギー	342kcal
たんぱく質	14.8g
脂質	14.4g
炭水化物	39.0g
塩分	2.5g



1 フライパンにオリーブオイルをひき、中火で鶏手羽元を焦げ目がつくまで焼き、一旦取り出す。

2 1のフライパンでそのまま玉ねぎとにんにくを中火で炒める。玉ねぎが透明になったらカレー粉を加え、全体をなじませるようによく炒める。

3 全体が白っぽくなるまで煮て、深くなるまで煮て、トマトジュースと☆の調味料を入れ、1に肉を戻して25〜30分煮込み、カレールーを加え、味をととのえる。



4 ★の野菜を皿に並べ、ラッブをして500Wで3分ほど加熱する。その後、フライパンで焼き目をつける。

5 餅を焼き、器に入れたら3の汁を注ぎ、具材を盛りつける。

旬の食材

かぶ：かぶの白い根の部分は淡色野菜、葉は緑黄色野菜に分類される。根には消化酵素が多く含まれ、この時季食べすぎた胃を助けてくれる。葉は栄養価が高く、とくにカルシウムはほうれん草の5倍も含まれる。

ほうれん草：旬を迎える今の時季のほうれん草は特にカロテンが多く、体内でビタミンAに変換されて粘膜の保護や免疫力アップに役立つ。鉄分や葉酸も多く、貧血の予防にもオススメ。

イーハトーブの担い手便り

純情産地の創造者たち

「Uターン就農、菌床しいたけ栽培参入」

小笠原哲史さん(釜石市)

東日本大震災が帰郷・就農を決断

釜石市鶴住町在住の小笠原哲史(34歳)さんは、平成23年に生まれ故郷である釜石市に夫婦でUターンして、平成24年から新規就農者として菌床しいたけ栽培に取り組み4年となりました。しいたけ栽培施設は釜石市の中心から北西に約4km、鶴住居川流域の河川敷の一角にあって、12km上流には昨年世界遺産登録された橋野鉄鉱山があります。鶴住地区はもともと原木しいたけによる乾しいたけの産地であり、叔父が現在の場所です。平成11年に菌床しいたけ栽培を始め、その後生産を一時中止していたものを哲史さんが再開することに

新規就農の取り組み経過

Uターン就農した動機は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災がきっかけで、津波により多くの尊い人命が奪われ地域社会が破壊されてしまひ、被災された哲史さん夫婦の両親や家族が(哲史さんの)帰郷を望まれたこともあり、都会での生活に区切りをつけて岩手に戻ることを決断されたと言ったことでした。

釜石に戻ってこれからの生活について家族で話し合った結果、叔父が始めた菌床しいたけの施設を活用して、しいたけ栽培を復活させることを選



小笠原哲史さん



哲史さんと佐々木TAC・浜端TAC



菌床しいたけ



菌床製造



しいたけ発生棟

小笠原哲史さんの概況

- 住 所：釜石市鶴住町4の34
- 家 族：本人、妻、長女、両親
- 労働力：本人、パート9名
- 営業規模：菌床しいたけ3万5千個
- 施設機械：作業舎4棟、培養棟(200坪)1棟、栽培ハウス9棟(40坪/1棟)ミキサー、殺菌釜、充填機、冷蔵庫、乾燥機



TAC活動

択されました。夫婦揃って就農するにはリスクが高いと考えて奥様は地元建設業に事務職として勤め、哲史さんが雇用によるしいたけ栽培に取り組みることになりました。

平成23年は就農準備のために施設の補修や整備、栽培技術の習得、きのこ産業会社との取引や生産物販売の準備に取り組み、退職前のビルメンテナンス業務の経験が施設整備に活かされました。

平成24年からしいたけの菌床づくり・栽培が始まりましたが、初めての経験で発生量も少なく栽培の難しさを実感して挫折しそうになりながらも、生産技術の改善に努めたことから2年目を迎えてしいたけの発生量も順調で、収穫量も軌道に乗せることができました。しいたけのA品はJAへバラ出荷(2kg箱)、残りB品は乾しいたけの加工や地元水産加工工業社へ佃煮の原料などとして販売、販路開拓にも積極的取り組み商品化率の向上に努めています。

目標は10万菌床、販売額1億円

2000坪の敷地に5万菌床の栽培施設が整備されていることから、当面これをフル活用し、更に規模拡大することにより、叔父が目指していた10万菌床・販売額1億円の実現を図りたいと、控え目ながらも意欲の高い目標を向うことができました。平成27年には農業経営改善計画が認定され認定農業者として目標達成に向けて取り組みとともに、Uターンして第一子が誕生し、父親としても経営者としても責任が更に増しています。

昨年の夏は38℃の猛暑により菌床しいたけ栽培に大きな打撃を受けたことから、改めて温度管理などきこ栽培の環境づくりの重要性を痛感したことから、周年安定した生産量を確保するための暑熱対策を行うために用水確保のための井戸のボーリング施工、クーラー設備導入など栽培環境の再整備にも取り組んでいます。

哲史さんには生産技術の改良や営業などに能力を発揮して経営を確立することにより、震災復興からの地域農業モデルとして活躍されたいと、新年を迎えられて更なる飛躍の1年と成りますことをご期待申し上げます。



2015 いわて純情むすめ ハーフタイム

「2015いわて純情むすめ」として活動を始めてから、早くも半年が経ちました。初めてのことに戸惑ってばかりいた彼女たちも、いつしか自分の思いを持つように。折り返し地点を迎えた今、これまでの活動を振り返り感じたこと、また残り半年に向けた抱負を語っていただきました。司会進行役は、歌とトークならおまかせ、頼れる“ちなっぴー”こと西川知奈美さんです。



印象に残っている仕事は何ですか？

牛肉の共進会が一番印象に残っています。初めて見る枝肉の大きさにも驚いたけれど、セリの様子がすごくかっこよかった。白衣を着て声を張り、真剣な眼差しで枝肉の細部までチェックする様子に圧倒されました。

私は、純情むすめになって初めての活動でもあるキウウリビズフェアです。東北6県のPRスタッフが集まって、それぞれ自分の県の農産物をPRするので、まわりに圧倒されてしまいました。でも、ほかのPRスタッフの姿から刺激を受け、純情むすめとしての自覚とやる気を得た機会でもあります。

農業まつり。お年寄りが多いイメージがあったけれど、家族連れが多かったのが意外でした。産直を会場としたお祭りは地元の人が多くて、地域に愛されているんだなと思いました。

私は、盛農祭かな。高校生が自分たちでつくった農産物や加工品を販売するのだけ、売る姿勢からも学ぶものがあって。農業高校ならではの雰囲気も味わうことができました。皆、あいさつなど礼儀がしっかりしていたところも印象に残っています。自分の子どもには、ぜひとも盛岡農業高校をオススメしたい！



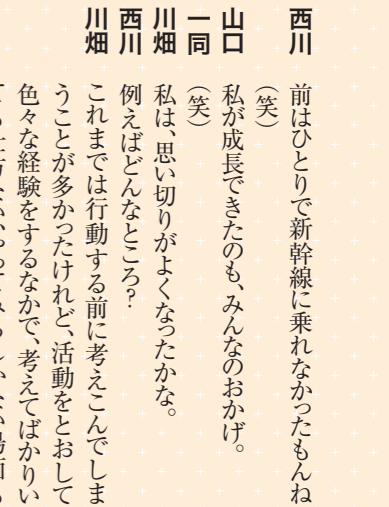
純情むすめになってから、自分自身に変化・成長はありますか？

どれも思い出深いけれど、一番インパクトがあったのはいわちく感謝デー。ステージでなち(山口)とクイズイベントをやったのだけど、雨天にもかかわらずお客さんがすごくたくさん集まってくれて。コントみたいになっちゃったんだよね(笑) そうそう(笑)。私たち2人の拙いステージにもあたたかい言葉をたくさんいただいた。お客さんとの距離が縮まった感じがしてすごくうれしかったです。県内にとどまらず、県外の方にも親しみをもちてもらえるよう、努力していきたいな。

スーパーで買い物するときに、これまで以上に産地を気にするようになりました。また果物の品種のちがいがや美味しい野菜の見分け方など、活動をおして学んだことを、消費者としての立場から活かしています。それから、最近の若い人はお花をあまり買わないと聞いてから頻りに買うようになったり。色々なことに興味関心を持つようになりました。

前はほとんど家から出なかったのだけど、純情むすめになってから県内外色々なところへ行き、たくさんの人と話すようになって世界が広がりました。ひとりで行動するのが苦手だったけれど、前よりも度胸がついた気がします。

手前の農畜産物の良さを上手に伝えられるよう、また私たちを通じて身近に感じてもらえるよう頑張りたいです。前半の活動でできなかったことの反省を、後半に活かしていきたいよね。私は、実際にお客さんに食べてもらえらる機会を増やしたら良いと思います。自分がお客さんの立場のとき、美味しい試食があると多少高くても買ってしまいます。それから、今回『ハイキュー!!』とコラボした商品を企画したように、何か人気のコンテンツとコラボしてみたら、新たな層へのPRになるかも。スーパーでの試食だと、どうしても主婦層へのPRがメインになってしまうから...。若い人との絡みがありないうね。確かに！おじさんおばさんはよく買ってきてくれるけど、若い世代にもっと食べてもらいたいよね。



前はひとりで新幹線に乗れなかったもんね(笑)

私が成長できたのも、みんなのおかげ。(笑) 私は、思い切りがよくなったかな。例えばどんなところ？

これまで行動する前に考えこんでしまうことが多かったけれど、活動をおして色々な経験をすることで、考えてばかりいても仕方ない、やってみるしかない場面もあるのだと学びました。

私は農業関係のイベントに興味を持ち、足を運ぶようになりました。また、コミュニケーション力や積極性の面でも成長できたと思います。ちなっぴー(西川)と同じく、食材の産地にも気を配るようにも。純情むすめとしての責任を感じるようになりました。今は色々な人の声を聴く余裕も出て、どうしたらもっと効果的にPRできるかなと販売者側の立場から、物事を考えられるようになったと思います。生産者と消費者の真ん中において、両方の声を直に聞くことができる。そんなかわって純情むすめだからこそ、できることがきつとあるよね。

岩手のものは美味しい！という声をよく聞きます。やはり本当に美味しい、良質なものはちゃんと受け入れられていると感じます。特に肉やお米は消費者の認知度が高く、岩手の食材への良いイメージが根付いてあげたい。

それいいね！私は、私たち純情むすめが実際に農家さんを訪問して農業体験する企画とか、若者へのPRに良いかもって考えてたんだけど、そのときとれた食材を使って料理をするのもアリかも。それいい！(盛り上がり)

後半戦に向けての抱負・意気込みをどうぞ。純情むすめになってから約半年、本当にあっという間でした。この半年で色々なことを吸収して、成長できたと思います。後半も自分らしさを忘れず、全力でがんばります！

活動の流れをつかむので精一杯だった前半戦。後半戦ではもっと自分で勉強し、お客さんと岩手の農畜産物について語り合っていたらと思います。

前半は慣れない部分もあって、やや悔いが残ります...。これからは大好きな故郷、岩手の農畜産物について、ほかの県にはない良さを自分なりに伝えていけたらと思います。生産者と消費者両方にはたつきかけるようなこともしていきたいです。前半6ヶ月はどれも初めての経験ばかりで、目の前のことで精一杯だったように思います。これまでの活動で見た、知った、感じたことを踏まえ広い視野をもって活動していきたいです。消費者の方はもちろん、生産者関係者の方みんなに身近に感じてもらえるような『いわて純情むすめ』を目指して頑張ります！

これまで新しく知ることばかりで活動内容も多岐にわたって、自分のなかに余裕がありませんでした。後半はいくらか余裕をもつ活動できると思うので、学んだことを活かして精一杯やりたいです。その場限りではなく次もまた買ってもらうように、『伝える』ということに重きをおいて頑張ります。



山口菜那(なっち)



川畑春海(かすみん)



西川知奈美(ちなっぴー)

西川 お客さんから、いつも買っているよ、美味しいよねとよく言っていたんです。岩手の農畜産物は全国的に愛されていると聞いて良いと思います。ただ、美味しいけれど高いという声も...。 山口 販促活動のときは、お客さんから相手にしてもらえないのではいつも不安。でもたくさんの方が足をとめてくれて、逆に岩手の食べ物の良いところを教えてくださいませんか？ 西川 『安全』という声も多く聞きますし、岩手の農畜産物は信頼され、愛されているのだと思います。 意外と他県の人の方が、知識があったりするよね。

北川 私も岩手について尋ねられて答えられないこと、あったよ。 山口 さっきの話でも出たけど、私たちはまだまだ勉強不足。お客さんに尋ねられて答えられないとき、私はすごく悔しいし、純情むすめとしての活動を重ねるたび、もっと多くの人に岩手の農畜産物を知ってもらいたいという思いが強くなります。岩手つ子として自信を持ってPRするため、もっと勉強しなければ！ 川畑 世界遺産の件数も増えたことだし、観光客向けのPRをする必要が出てくると思います。県外から遊びに来る人に、岩手の農畜産物を実際に食べてもらう機会があるといいかも。一度試して気に入ってもらえたら、通販などで今後も利用してもらえませんか？ 西川 アンテナショップなんかもあるもんね。 そうそう。 川畑 いろんなPRの方法はあると思うけれど、PRする場があるというだけでも大きなチャンスだと思います。まずはPRの機会ひとつひとつを大切に、生産者・関係者の方の『思い』を伝えるという私たちの役目を全うすることが大切じゃないかな。岩

西川 これからの岩手県産農畜産物をPRするためにはどのようなことが必要だと思いますか？ 北川 私も岩手について尋ねられて答えられないこと、あったよ。 山口 さっきの話でも出たけど、私たちはまだまだ勉強不足。お客さんに尋ねられて答えられないとき、私はすごく悔しいし、純情むすめとしての活動を重ねるたび、もっと多くの人に岩手の農畜産物を知ってもらいたいという思いが強くなります。岩手つ子として自信を持ってPRするため、もっと勉強しなければ！ 川畑 世界遺産の件数も増えたことだし、観光客向けのPRをする必要が出てくると思います。県外から遊びに来る人に、岩手の農畜産物を実際に食べてもらう機会があるといいかも。一度試して気に入ってもらえたら、通販などで今後も利用してもらえませんか？ 西川 アンテナショップなんかもあるもんね。 そうそう。 川畑 いろんなPRの方法はあると思うけれど、PRする場があるというだけでも大きなチャンスだと思います。まずはPRの機会ひとつひとつを大切に、生産者・関係者の方の『思い』を伝えるという私たちの役目を全うすることが大切じゃないかな。岩

川畑 これまで新しく知ることばかりで活動内容も多岐にわたって、自分のなかに余裕がありませんでした。後半はいくらか余裕をもつ活動できると思うので、学んだことを活かして精一杯やりたいです。その場限りではなく次もまた買ってもらうように、『伝える』ということに重きをおいて頑張ります。

フラワーコンテスト入賞者表彰式も

12月3日(木)

いわて花き生産者の集い

本年度のいわて花き生産者の集いが花巻市内のホテルで開かれ、生産者、関係団体、JA、県機関等約110名が参集しました。「いわてフラワーコンテスト2015」の表彰式も同時開催され、最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞した八幡平市の北口和幸さん(JA新しいわて)をはじめとする受賞者33名が称えられました。

集いでは、27年度農林水産祭園芸部門にて最高賞である天皇杯を受賞したJA新しいわて八幡平花卉生産部会を代表し、工藤佳輝さんが「産地の発展に向けた部会の取組について」と題し講演。SNSを活用した産地PRや海外・国際事業など、同部会の取り組みを紹介しました。県農林水産部農産園芸課の高橋昭雄総括課長は「本集いが生産者の生産拡大、経営改善の一助となれば」と思いを述べました。



講演会の様子



最優秀賞を受賞した北口和幸さん

酪農技術の向上を図る

11月25日(水)

岩手県・若手酪農家の集い

岩手県の酪農関係団体で組織する岩手県乳質改善協議会は、県内の酪農後継者やJA担当者など約90名を参集し、盛岡市内のホテルにて岩手県・若手酪農家の集いを開きました。この集いは酪農家間のコミュニケーションと相互の研鑽を目的として2015年より毎年開催されており、今年で5年目。今回は若手酪農家5名がこれまでの経験や経営内容について発表しました。葛巻町で家族経営を行う高宮幸恵さんは、放牧の実践、採草地の共同管理や雇用により得られるメリットなどを紹介。「今後はさらなる労働力の確保やデントコーンの増収を目指したい」と意気込みを語りました。



24歳で就農、家族で酪農を営む高宮幸恵さん

花園での活躍願う

12月10日(木)

黒沢尻工業高校へ支援金贈呈

JAいわて花巻とJA全農いわては、第95回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場する黒沢尻工業高校ラグビー部へ、コメ30kg、豚肉一頭分と支援金を贈りました。同JA本店で行われた贈呈式には同校福士猛夫校長と高橋智也監督、阿部健悟主将が出席、JAいわて花巻の高橋勉代表理事副組合長とJA全農いわて小原俊英副本部長より目録が手渡されました。

小原副本部長は「いわて純情豚を食べて元気をつけ、岩手の代表として思う存分暴れてきてほしい」と激励しました。阿部主将は「自分たちのスタイルを貫き通し、ベスト8を目指してがんばります」と応えました。



贈呈式参加者
(左から小原副本部長、高橋代表理事副組合長、阿部主将、高橋監督、福士校長)

岩手107号、名称は「銀河のしずく」に決定!

11月26日(木)

岩手107号名称発表会

県が開発したコメの新品種、「岩手107号」の名称発表会が盛岡市内にて開催されました。名称は「銀河のしずく」に決定。達増達也岩手県知事と2015いわて純情むすめにより幕が除かれ、新名称が披露されました。



達増知事と2015いわて純情むすめにより除幕、新名称披露

「銀河のしずく」は、応募総数8,168点中より、消費者の意見も織り込んだ2度に渡る選考を経て選出。宮澤賢治の作品にも登場する「銀河」という言葉は一粒一粒の輝きを、「しずく」は「岩手107号」の特徴であるツヤや

白さをイメージさせ、岩手らしさと美味しさが表現されている点が評価されました。達増知事は「いかにも岩手らしく、オンリーワンな名前。どんどん食べて広めていきたい。」と話しました。

「銀河のしずく」は来年、県央部の100ヘクタールで作付され、秋にデビュー予定。



「銀河のしずく」を手に、達増知事と、農協や商工会議所などの関係者ら

学校給食に県産牛

11月27日(金)

「いわて牛・いわて短角和牛学校給食の日」食育活動

JA全農いわては、県産牛肉に関心を持ってもらおうと「いわて牛・いわて短角和牛学校給食の日」食育活動を行いました。3年目となる今年は、県内小・中学校など296校へ県産牛肉1,700キログラムを提供。このうち盛岡市の米内小学校には生産者やJA全農いわ



ピビンパを口に運ぶ児童

て職員らが訪れ、4年生の児童を対象に県産牛について授業を行いました。授業では岩手県の畜産やいわて牛の特徴について説明。松頭希空(のあ)さんは「これまで考えたことがなかったけれど、もっと大切に食べようと

いう気持ちになった」と感想を話しました。

その後行われた給食交流会には県産牛肉を使ったピビンパが登場。盛岡市玉山区で繁殖・肥育農家を経営する中村鉄男さんも参加し、児童と交流を深めました。中村さんは「牛のことを理解し、たくさん食べて元気になってもらえれば」と話しました。



授業にはいわて牛PRキャラクター「チャンプ」も参加

今年も「冬恋(はるか)」出荷開始

12月2日(水)

いわて純情プレミアムりんご「冬恋(はるか)」出発式

いわて純情プレミアム「冬恋」の出発式が二戸市のJA新しいわて北部りんごセンターで行われました。開催に先立ち、二戸市の藤原淳市長が「生産者や流通、販売の関係者に敬意と感謝を表したい。今年のもう夏や台風を乗り越えた冬恋は特別に美味しく、消費者に満



蜜たっぷりの「冬恋」

足いただける逸品だと思う」と挨拶。式には2015いわて純情むすめも駆けつけ、生産者やJA関係者がテープカット、リンゴジュースによる乾杯と万歳三唱で今年の「冬恋」出発を祝いました。

「はるか」は平成14年

に種苗登録された県オリジナルの晩生種で、同市や花巻市を中心に栽培。「はるか」の中で、糖度16度以上、蜜入り度数3.0以上を満たしたものが、いわて純情プレミアム「冬恋」として、贈答用を中心に販売されます。26年度の販売数量16,331ケース(5kg/ケース)、販売金額は51,756千円。販売実績は増加し続けており、今年度は県全体で25,000cs、75,000千円の販売を目指します。



テープカットの様子



編集
後記

あけましておめでとうございます。今年も新しい年が始まりました。

2015年の「今年の漢字」は「安」でしたね。4月に新社会人としてのスタートをきったばかりの私にとっては、しっかりやっつけたいのか、不安の「安」でしたが、皆様のご助

力によりクララ新年号まで無事、継続して発行することができました。本当にありがとうございました。2016年も取材で色々なところへ出没することと思いますので、その際はまたどうぞよろしくお願いいたします。

(千葉)



牛肉の傑作、いわて牛。
雅味悠久



いわて牛普及推進協議会
 事務局 / 岩手県農林水産部流通課内
 TEL019-629-5735
<http://www.iwategyu.jp/>



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
 安心で結ぶ懸け橋**
 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
 JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>



純情産地発 **KLARRA**

JA全農いわて通信

クララ 平成28年1月1日発行 No.798

【編集・発行】JA全農いわて 総合企画課

【印刷】株式会社 社説印刷